

表 3-4 生態系への影響評価のための魚類を用いた内分泌攪乱作用に関する
試験結果（統括表）

(1) 平成12年度優先物質

物質名	試験結果
33.塩化トリブチルス	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
34.塩化トリフェニルス	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
36.4-ニルフェノール（分岐型）	魚類の女性ホルモン受容体との結合性が強く、肝臓中ピテロジェニン(卵黄タンパク前駆体)濃度の上昇、精巣卵の出現、受精率の低下が認められ、魚類に対して内分泌攪乱作用を有することが強く推察された。
36.4-t-オキルフェノール	魚類の女性ホルモン受容体との結合性が強く、肝臓中ピテロジェニン(卵黄タンパク前駆体)濃度の上昇、精巣卵の出現、産卵数・受精率の低下が認められ、魚類に対して内分泌攪乱作用を有することが強く推察された。
38.フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	頻度は低いものの、精巣卵の出現が確認されたが、受精率に悪影響を与えるとは考えられず、明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
39.フタル酸ブチルベンジル	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
40.フタル酸ジ-n-ブチル	頻度は低いものの、精巣卵の出現が確認されたが、受精率に悪影響を与えるとは考えられず、明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
41.フタル酸ジシクロヘキシル	頻度は低いものの、精巣卵の出現が確認されたが、受精率に悪影響を与えるとは考えられず、明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
42.フタル酸ジエチル	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
45.アジピン酸ジ-2-エチルヘキシル	頻度は低いものの、精巣卵の出現が確認されたが、受精率に悪影響を与えるとは考えられず、明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
46.ベンゾフェノン	頻度は低いものの、精巣卵の出現が確認されたが、受精率に悪影響を与えるとは考えられず、明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
48.オクタクロスリン	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。

(2) 平成 13 年度優先物質

物質名	試験結果
5.ベンタクロフェノール	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
8.アミトロール	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
37.ピレスロリン A	魚類の女性ホルモン受容体との結合性が弱いながらも認められ、肝臓中ビテロジェニン(卵黄タンパク前駆体)濃度の上昇、精巣卵の出現、孵化日数の高値(遅延)が認められ、魚類に対して内分泌攪乱作用を有することが推察された。
44.2,4-ジクロロフェノール	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
47.4-ニトロトルエン	頻度は低いものの、精巣卵の出現が確認されたが、受精率に悪影響を与えるとは考えられず、明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
63.フタル酸ジペンチル	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
64.フタル酸ジヘキシル	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
65.フタル酸ジプロピル	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。

(3) 平成 14 年度優先物質

物質名	試験結果
4.ヘキサクロヘキセン	頻度は低いものの、精巣卵の出現が確認されたが、受精率に悪影響を与えるとは考えられず、明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
12.ヘキサクロシクロヘキサン	頻度は低いものの、精巣卵の出現が確認されたが、受精率に悪影響を与えるとは考えられず、明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
14.cis-ケルテン	ビテロジェニン産生試験及びバースライサイクル試験を実施中
16.trans-ナクワル	ビテロジェニン産生試験及びバースライサイクル試験を実施中
18.p,p'-DDT	明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
18.o,p'-DDT	バースライサイクル試験を実施する予定
19.p,p'-DDE	バースライサイクル試験を実施する予定
19.p,p'-DDD	頻度は低いものの、精巣卵の出現が確認されたが、受精率に悪影響を与えるとは考えられず、明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。